

熱狂的なファンに惜しまれて宝塚を去ってから、映画、舞台と新しい挑戦を続ける和央さん。2009年の足跡を追って、これからの抱負を語ってもらった

大根の千六本に戸惑って

ミュージカル『シカゴ』の舞台からおよそ1年ぶりに、和央ようかが始動した。宝塚では剛毅な男役を演じた元トップスターが選んだ仕事は、『松本清張生誕100年スペシャル・中央流沙』。初のドラマで、初の主婦役。今年1月の舞台降板というアクシデントに沈黙を守り続ける和央は、少し肩の力が抜けていた。

お話をいただいたとき、テレビドラマに出たこともない私が、松本清

張生誕100年スペシャルの主演？とびっくりしました。しかも普通の主婦という役の設定を聞いて、またびっくりして、不安がいっぱいでした。でも、シノプス(あらすじ)を読んだら、面白かったです。

家庭を大切に生きてきたごく平凡な主婦が、陰謀に巻き込まれた夫の死をきっかけに変わっていく。悲しみの中で「なぜ夫はこんなふうになったのだろう」という小さな謎をいっばい抱え、それをひとつずつ解いていくうちに真相を追求していくことになる――。せっかくなので「普通の役もできるんじゃないか」と声をかけてくださったわけですから、新しい挑戦だと思い、やらせていただくことにしました。

最初、衣装合わせのときに、何を着ても、監督たちに「主婦に見えない」と言われました(笑)。でも考え

てみれば、実際の主婦の方たちってみなさん、お洒落なんですよ。主婦役をやるに決めた日から、街を歩くと、子ども連れの主婦が気になってずーっと観察してたんなんです。みなさん、とてもスタイリッシュに生きていらっしやる。美容院などに行くときでも気合いが入っていて、きれいにしてらっしやるし。私なんか、ほとんどすっぴんですよ。

撮影に入る前は、とても不安でした。役作りよりも、テレビドラマと違うのがはじめてだったので、現場のやり方であるとか環境であるとか、どう撮られるのかとかがわからない。とても緊張しました。まず私にできる作業は台本を覚えること。舞台をやる時も最初から最後まで一気に覚えていたので、今回も一気に覚えました。初心者でもできないのに、台詞が頭に入っていないことで惑わさ



自叙に追いやられるノンキャリアの官俵・倉橋豊(石黒賢・写真中央)の妻・倉橋節子役を演じる。左は息子・純役の小林海人

れるのは嫌なので、撮影前にそこだけはクリアしておきたかった。でも、やっぱり大変でした。とくに最初の日の撮影が、家庭の場面だったので。「台所で朝の支度をしている。味噌汁の大根を千六本に切っている」と台本に書いてあるんですが、前日、「えっ、千六本って何？千切りよりもっと細かいの？」どう

私が初めて「主婦」になった日

自分流を貫いて、アラフォーの星を目指す

構成◎島崎今日子
撮影◎初沢亜利
ヘアメイク◎小滝美和
スタイリング◎清水恵子



和央ようか

「しょう」と悩みましたよ(笑)。案の定、リハーサルでお味噌汁を思いっきりこぼして、まことに申し訳なかったです。

映像は舞台と違って、細切れに撮影していくので、つないでいく場面の動作を覚えていなければならぬことに戸惑いました。「あのときの動き、もう1回」と言われても、「何やったんだっけ」となっちゃう。たとえば、腕まくりしながら歩いていたら、次にその場面を撮るときも同

わおようか 女優。1968年大阪府生まれ。1988年宝塚歌劇団初舞台。2004年「BOX MAN」で菊田夫演劇賞受賞。06年退団後、07年「茶々 天涯の貴妃(おんな)」主演で映画デビューし、08年舞台「シカゴ」で主演。12月14日21時放映のTBS系全国ネット「松本清張生誕100年スペシャル 中央流沙」で主演。12月21、22日東京帝国ホテル、23日大阪ザリッツホテルでクリスマスディナーショーを予定

じょうに腕まくりしなければいけないとか。大きな動きはさすがに覚えていますが、さりげない動きを毎回計算するのが難しかったですね。

もうひとつぶつかったのは、歩き方。たとえば彼女が覚悟を決めて歩くシーン。凜として歩くんだと思っ

歩いたらダメ(笑)。ああ、難しいなと思いましたがね。私というものを殺して役に染まったほうがいいのか、私という人間がやるからには普通の主婦だけ私の色を残したほうがいいのか。悩みました。結論は、その間の微妙なところを狙うということ。でない、私がやらせていただく意味はないので。

でも、袖でゲラゲラ笑っていて、出番になると深刻な顔をして舞台に出て行ける人が羨ましくて、この仕事に向いてないな、と思っていた。約1カ月の撮影期間、休みは1日もなしで、1日1、2時間しか眠れない日が多かった。あまりのスケジュールのタイトさに、女優さんって眠れないんだ、大変だなあと思うづ

悲しい場面が多いのも、なかなかハードでした。舞台では感情的に泣くというシーンってあまりなかったのですが、今回はよく泣きました。カメラの前で泣けるには泣けるんですが、客観的にその姿を計算できないので、すごく汚い顔で泣いていると思います。鼻も赤くなっちゃったり(笑)。重いシーンは、感情をそこにもっていくため、現場でもなるべく共演者やスタッフと喋らないようにしているので、続くとしんどいんですね。私は器用ではないから、役になりきるとパーンと感情を切り替えられない。宝塚時代